

創意工夫

～未来を創る意をもって、未踏の道を共に歩こう～

1. はじめに

「我々はかく信じる」

JCI クリードはこの一文からはじまります。見えないものを信じること、これは人間だけに与えられた偉大な力です。私たちは不確かな未来に対し、英知と勇気と情熱をもってそれを描き、実現する力を授かって生まれてきました。私は人の持つこの力が、明るい豊かな社会を築くために使われ、より良い未来が訪れることを信じています。

やり方は分からなくとも、成し遂げたいことがある。創意工夫の精神で。

2. 存在目的

私たちの存在目的は「明るい豊かな社会を築く」ことです。

そのために、まちづくり、ひとづくり、仲間づくり運動を展開します。

2-1. まちづくり

私たちの目指す「明るい豊かな社会」とは何でしょうか。社会の目的のひとつは共に生きることだと思います。いじめや差別や戦争をすることなく、共に生きていける社会を築くことができたらどんなに素晴らしいことでしょうか。老若男女、豊かさや貧しさ、障がいのあるなし、優秀だとかそうでないとか、成功や失敗等に関わらず、人にはそれぞれ弱さもあり、個性もあり、完璧な人などおりません。多様な個人が幸福を追求できる社会を皆でどう達成していくのか、という目的を忘れないでいてこそ、明るい豊かな社会ではないでしょうか。人はそもそも善良な存在であると信じ、どんな人であっても共に豊かに生きていける社会を目指したいと思うのです。

そのためには、個人や社会の抱えている望みや問題を、全員の課題として捉え、共有することのできるコミュニティを発展させていく必要があると考えます。社会のために個があるのではなく、個のために社会があり、個人が幸福を追求できる社会は、社会が達成するのだと、みんなが関心を寄せ合う共生社会を目指し、社会開発事業を展開します。

2-2. ひとつづくり

社会が個人の幸福を追求するとき、その「個人の幸福」とは何でしょうか。人生最大の幸福のひとつ、それは他者への貢献であり、共に生きることの成果を分かち合うことだと思います。人は一人では生きていけません。長所もあれば短所もあり、人生には順調な時があれば困難な時もあります。苦しい時には誰かの支えが有難く、順調な時には誰かの支えになれた実感が自分の人生に価値を与えます。それは双方にとっての幸せです。困難を分かち合い、成功を分かち合い、共に喜び、笑い、称え合う。人の幸福とは、自分が誰かに支えられ、また役に立つことができたという実感を分かち合うことだと思うのです。すべきではなく、したいからという理由で他者へ貢献する。そんな市民が多く住む社会を目指したいと考えます。

そのためには、公共心を育み、集団や社会の中でリーダーシップやフォロアーシップを発揮できる人材育成を発展させていく必要があると考えます。他者へ貢献する喜びは確かにあります。それは人間形成のひとつである精神の成長です。社会の成長はそれを構成する個々の成長にかかっています。未来は私たちの手の中に委ねられているのです。主体的に社会参画する公共心溢れた市民の育成を目指し、指導力開発事業を展開します。

2-3. 仲間づくり

私たちは、助け合い、長所を持ち合い、お互いを補い合うことで一人では生み出すことのできない価値を創ってきました。他者を妬み、批判し、足を引っ張り、自信を失わせるのではなく、他者を勇気づけ、信頼し、励まし、鼓舞し、支援しましょう。他者の成功を信じましょう。それは自分のためでもあるのです。お互いを理解し、お互いの利益を考え、より多くの人と共に描ける共通の目的を見出し、多くの人を巻き込みましょう。数は力です。多くの人共感し、信じあえるほど人は力が湧いてきます。それは社会の発展の大きな一助となります。青年会議所で活動することは、公共心や主体性を育みます。会員を増やすこと、それは私たちにとって主体的に社会参画する市民を増やすための手段のひとつであり、取り組み続ける重要なテーマです。

そのためには、青年会議所運動を多くの人に知ってもらい、参画して頂く必要があります。私たちの活動に共感を得て、協力者を増やすのです。会員数は私たちの運動に対する社会からの評価でもあります。数々の輝かしい評価を受けてきた一方で、会員減少という現実を活動の改善に繋げていかなければなりません。青年会議所運動に更に多くの仲間が集い、お互いを理解し支え励まし合う仲間づくりを目指し、会員拡大事業を展開します。

3. 評価基準

目的達成に対する評価基準を、事業参加者数、出席者数、会員拡大数等と定めます。

4. 現状と課題

存在目的を達成するために、三島青年会議所の運動や事業はさらに多くの方に知って頂く必要があります。知ることがなければ参加参画する機会はありません。市民意識変革の機会をより多く創出するために、広報活動の向上を目指し、事業参加者数という指標をもとに改善を行っていきます。

活動への出席者数は減少傾向にあります。出席するということは参画することでもあり、その増減は、社会参画を促す運動の質に繋がります。課題は、参画することの面白さ、貢献する楽しさ、成果を求める真剣さの質と考えます。社会問題の解決に参画することは楽しいことという意識醸成を目指し、出席者数という指標をもとに改善を行っていきます。

現状の会員数は存続の危機であり、会員数40名は存続のデッドラインです。存在目的のためには少なくとも60名は必要であり、適正規模を考えれば80～100名程度が望ましいと考えます。また、会員増は主体的な市民を増やすことですから、将来的には会費とのバランスを考えながら、200～300名規模を選択することが私たちの存在目的にとって望ましい可能性もあります。課題は、青年世代との繋がりの維持継続と考えます。出会った青年世代と一期一会で終わることなく繋がりを維持し、相互理解を深め、相手にとって良いタイミングでいつでも参加できる関係の継続を目指し、会員拡大数という指標をもとに改善を行っていきます。

5. 組織進化

存続の危機に際して、全会員が課題解決に対し自分ごととして、積極的に他者に関わり自律的に行動することを望みます。それは会員の主体性を育むことでもあります。

そのために、情報共有、チームビルディング、全員経営の施策を全委員会の委員会活動を通して実施し、主体的、機動的、協調的な組織運営を目指します。

5-1. 情報共有

全会員と、評価基準、会計、意思決定プロセスの情報共有を図ります。

評価基準を共有し、活動結果を全員が評価できる情報提供を行います。

会計情報を共有し、機動的な意思決定を全員が判断できる情報提供を行います。

コミュニケーションの透明化を図り、合意形成から意思決定へのプロセスを共有します。

5-2. チームビルディング

タックマンモデルによると、集団が成果を出すには、形成期、混乱期、統一期、機能期というプロセスを辿ります。全会員がプロセスを理解し、会全体と全委員会がチームになることを目指します。

5-3. 全員経営

三島青年会議所の主権者は会員一人ひとりです。役割分担は一見効率的に見えて、他人事を招き、全体の効果を下げることがあります。理事会、委員会、委員長等の役割分担意識の垣根を排し、会全体で成果を出すために、一人ひとりが青年会議所経営の主体者として、一会員の権限と責任を再認識し、相互に意思決定プロセスへ参画する意識醸成をしていきます。

また、一会員の主体的な意思決定プロセスへの参画を実現するために、機動的な予算編成、事業実施が行える仕組みづくりをしていきます。

6. 終わりに

「先人の跡を求めず、先人の求めたるところを求めよ」

三島青年会議所は、この地域で57年間、まちづくり、ひとづくり、仲間づくりを行ってきました。その伝統を、表面的な形で引き継いでいくことが伝統と誤解することなく、それを求めた心を引き継ぎ、自らもそれを求め、在り方の手本となり繋いでいく。それこそが、我々が先輩たちから引き継ぎ、三島青年会議所がこれからもこの地域で連綿と行っていく最大の事業だと考えます。

青年会議所は民主主義の社会をより良く発展させるためのひな形であり、学び舎です。その学び舎を未来に繋げ、この学び舎で育った青年たちが、将来にわたり明るい豊かな社会を築く力となり続けることを信じています。